

釧路湿原自然再生協議会
第37回 再生普及小委員会
議事要旨

日時： 令和4年2月4日（金） 14：00～15：30
オンライン（Zoom）開催

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) 湿原の保全や再生に係る情報の発信について
 - 3) その他
3. 閉会

事務局

（開催にあたっての協力依頼事項説明）
（資料の確認）
（委員長へ進行依頼）

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき内容説明。

（概要版 再生普及行動計画オフィスの取組について）
（資料1. 再生普及計画オフィスの取組について 資料1～6ページ）
（資料1－1. 「ワンダグリンド・プロジェクト2021」参加状況）
（資料1－2. 小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況）
（資料1－3. 参加者アンケート集計結果）

<動画再生>（「釧路湿原の『すごい！』を体験しよう」）

委員長

アンケートでは初めて企画に参加される方が多かった。案内する立場として、参加者たちの意識や感覚について何か変化は感じたか。

委員

私たちの取組みにおいて一番の目的である初めて参加したという人たちが増えてきている

ことを感じる。事業開始から十数年経過し、再生事業が市民の人たちに少しずつ浸透してきているのではないかと感じている。企画当初は年配の人の参加が多かったが、最近は若い人や女性の参加も多くなってきている。釧路湿原が受け入れられ始めたことから、再生事業についても、難しいことではなく、身近なものとして受け取られ始めていると思う。これまでの皆さんの取組みが、いよいよ実を結び始めたのではないかと考えている。

委員長

様々な分野で自然の大切さが当たり前に語られるようになってきた結果、これまでのイメージとは違い、釧路湿原は大事にしなければいけない場所、気安く足を踏み入れることが難しい場所になっている気がする。そのような中、釧路湿原に足を踏み入れる機会を増やすことは大事である。

参加者の年代に関しては、アンケートの年齢層を見ると70代が非常に多い。10代、20代の方たちが参加できるような機会をどうしたら作れるだろうか。

委員

各小委員会等の資料の収蔵について、釧路市中央図書館以外はどういった状況か。

事務局

今年度から始めた取組で、中心的な存在となり得る釧路市中央図書館から作業を開始した。現時点では他の自治体の図書館や博物館との具体的な調整は始めているが、効果が見込めそうであれば、今後広く展開していきたい。

委員長

釧路湿原周辺町村の図書館なども含め、資料収蔵の可能性を追求したい。図書館等への資料収蔵は、外部への資料公開を目的としている。外部への公開を前提に作成すれば、内部資料ゆえに固くなってしまいう表現も少し和らぐかもしれない。湿原に対する一般の人たちの認識が広がるよう、色々な人の目に触れる場所に資料が公開されることを期待している。

委員

NHKのブラタモリという番組において、釧路湿原の回に同行していたアナウンサーが、ブラタモリに参加した中で一番楽しかったことは、湿原の中に降り立ったことだと話していた。案内人を務めた委員と釧路湿原の話が出たことをとてもうれしく思い、そうした活動は非常に重要ではないかと思う。

委員

事務局から報告のあった普及活動においても、色々な人たちが釧路湿原の自然の仕組みに

ついて紹介している。若い人たちも次々と出てきており、多様な人たちが担ってくれるようになっていく。情報発信は随分と広がっているのではないかと思う。情報発信をする際には、マスメディアも意識しながら発信することにより、マスメディアの目にも留まり、情報を発信してもらうことにつながる。

委員長

文書による情報発信と、それ以外の、画像や写真、動画のような形で情報発信する場合とでは、かなり違いがあるような気がする。後者を増やしていきたい。

委員

釧路のホテルでは、ロビーで流れている釧路湿原などの色々な映像を見ている観光客は多い。一つの事例として、地域創生などの交付金で、根室市役所が JR 花咲線全線の 2 時間半ほどの PR 映像を作成したところ、多数の閲覧があり、電車が満員になるといったことがあった。再生普及小委員会でも、例えば、JR 釧網線とタイアップし、行きは JR、帰りはカメラを利用するといった、往路復路ともに釧路湿原が出てくるような動画を作成していただきたい。

また、札幌ではオープンデータを用いたイベントを行っているが、釧路周辺においても同様のイベントを行い、若い人の参加を促してはどうか。釧路市役所や釧路開発建設部、森林管理局のオープンデータを用いて「ポスターを作ろう」といったイベントを、地元の人たちや IT に詳しい人たちと一緒に実施するのも良いと思う。

委員長

アンケートの結果で好評であったドローンの活用について考えると、今までの視点が一変するところから、湿原を見られたら面白いと思う。

【議事 1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき説明

(資料 1. 再生普及行動計画オフィスの取組について 資料 7～10 ページ)

委員長

北海道にまん延防止等重点措置が適用されたため、学校教育において、釧路湿原を巡る色々な試みや活動に携わる外部の人が、学校を訪問しにくくなってしまった。

湿原を題材にして児童や生徒自身が、問題点や疑問点を見つけ、解決方法を理論的に考え、調べ、結果をまとめ、発表する。そうした、単なる発表会ではない形が、今の教育に必要なのではないかと考えている。そのために必要なことは、自分で考え、間違っても良いからそれを

試みて解決、結論を出すといった一連の活動への、外部からの支援ではないか。その支援の試みとして、釧路湿原が絶好のテーマになるのではないか。

委員

当時、辻井先生が「釧路湿原の説明をしても大人はなかなか話を聞いてくれないが、子どもが説明すると真面目に聞き始める」と仰っていた。

これは、教育というよりも子どもたちの社会経験、大人との関わりを体験するという位置付けがあるのではないかと思う。学習発表会では授業の一環である学芸会と変わらない。アウトプットのひとつの形として、大人や観光客に向けて説明するような場はこれまでにあったか。

委員

鶴居村の中学校の生徒を連れて湿原に入るという授業を行った。生徒たちはグループに分かれてテーマを持ち、それらについて調べ、結果をポスターにまとめた。生徒がそのポスターを用いて授業の内容をご両親に話すと、ご両親がとても喜び鶴居村の自慢をされたとのことである。これからもそうした活動は大いに実施していきたいと思う。

委員

去年と今年は、コロナの影響で子どもたちの活動機会が少なかった。自身に関わる活動では、壁新聞を作成・出品したが、子どもたちが発表する場はあまり無かった。子どもたち自身により、他の子どもたちへ活動の様子を知らせる場を作りたいと思うが、機会がなく残念である。

委員

「知る」ということは大切なことであり、無関心であればそれを認識することもない。素晴らしい釧路湿原を見て圧倒されても、人の話が耳に入らなければ、知ることによる感動も増強されない。

なかなか活動の場が無いということだったが、釧路湿原を紹介する小学生のユーチューバーのような人材を育ててはどうか。

委員

現状では外出も難しいが、様々な媒体で釧路湿原を紹介する仕組みがあれば、遠くの人にも訴求できるのではないか。

今日の動画も素晴らしく、動画の中でたくさんの方が活動に参加されていた。地元の小中学生の取組みが活発になってきたというのは大変良いこと。地元でどう盛り上げていくか、遠くにいる人にどう働きかけていくか、あるいは今後、コロナが少し収まった時に観光客に

どうアプローチするのか、そうした戦略をもう一度考えてみるのも良いのではないか。

また、各事務局によるホームページが以前は分かりにくい印象があったが、再生普及行動計画オフィスのホームページ「みんなで進める釧路湿原の自然再生」は、全体の見取り図が見える形になっており、とても分かりやすい。

各々の小委員会においては非常に専門的な研究レベルの活動がされており、素晴らしいデータが蓄積されてきている。他の研究者にも釧路湿原のことを研究してもらうためには、蓄積されたデータを報告書にまとめるほか、データをそのまま使える形で共有して活用してもらう仕組みを考えたい。地元の小学生、中学生、高校生、さらには大学生へとデータの活用をアピールしていく。さらに、遠くて行けないが釧路は素晴らしいところだと感じてくれるファンをさらに増やすため、色々な人へのアプローチを考えたい。

委員

多様な方に釧路湿原への関心が広がっていることに興味を持った。遠くの方々にどのようにして参加していただくか、興味を持っていただくかというのがとても難しいところであり、また面白いところかと思っている。

委員長

世界の情報発信の進歩は実に目覚ましい。それらに対応できる新しい世代の人たちに関心を持っていただく試みを意図的にやらなければいけないと思う。

【議事2. 湿原の保全や再生に係る情報の発信について】

事務局

資料に基づき説明

(資料2. 湿原の保全や再生に係る情報の発信について)

委員長

釧路市中央図書館への資料収蔵は、企画がスタートしたばかりである。様子を見ながら他の図書館等への拡充について考えたい。

動画の活用については、現地見学会の広報においても可能かどうか検討したい。

各小委員会のニュースレターは専門的な言葉づかいが多いが、広く情報が網羅されており、非常に有益なため、一般にも広く利用できないか考えたい。ニュースレターを作成する際に、作成者と一般市民との間に誰かが入り、もう少し分かりやすく、噛み砕いた表現を用いるようにすると、一般にも広がる可能性があるのではないか。

委員

ニュースレターをどこかで見られるようにすることは良いこと。しかし、現状では、各小

委員会の事業実施時期など、求める情報が記載されたニューズレターを検索するのが困難である。簡単な年表が公表資料と一緒にあると良い。

委員長

ニューズレター全体の見出しを用意できないかを考えることが次の課題になるのでは。見出しを簡単に一覧でき、時系列や進捗が分かるような工夫があれば、課題をクリアできるのではないか。

定刻となったため、本日の会義を閉会する。

事務局

以上で第37回再生普及小委員会を閉会とする。

(終了)